

# 一般入試 数学

I  の解答は解答群の中から最も適当なものを1つ選べ.

$n$  を 100 以下の自然数とし、 $n$  の約数の個数を  $f(n)$ 、空集合を  $\phi$  とする.

(a)  $f(48) =$   であり、 $f(n) = 9$  を満たす最小の自然数は  $n =$   である.  
 $f(n) = 5$  を満たす  $n$  の個数は  個であり、 $f(n) = 6$  を満たす  $n$  の個数は  個である.

(b)  $f(n)$  の最大値は  である. したがって、 $f(f(n)) > 4$  を満たす最小の自然数は  $n =$   となる.

(c)  $f(n) = 2$  を満たす 100 以下の自然数  $n$  の集合を  $A$ 、100 以下の素数の集合を  $B$  とすると、 が成り立つ.

の解答群

①  $A \in B$

②  $B \in A$

③  $A = B$

④  $A \subset B$  かつ  $A \neq B$

⑤  $B \subset A$  かつ  $A \neq B$

⑥  $A \cap B = \phi$

⑦  $A \cap B \neq \phi$  かつ  $A \neq A \cup B \neq B$

II ツ の解答は解答群の中から最も適当なものを1つ選べ.

区間  $\frac{\pi}{6} \leq \theta \leq \frac{2}{3}\pi$  を定義域とする関数  $f(\theta) = 2\sin^2\theta + 4\sin\theta\cos\theta + 4\cos^2\theta$  について、以下の問いに答えよ.

(a)  $f(\theta)$  は次の形に変形できる.

$$f(\theta) = \sqrt{\text{ア}} \sin(2\theta + \alpha) + \text{イ}$$

ただし、 $\alpha$  は  $\tan \alpha = \frac{\text{ウ}}{\text{エ}}$  を満たし、 $\tan \frac{\alpha}{2} = \sqrt{\text{オ}} - \text{カ}$  が成り立つ.

(b)  $f(\theta)$  は、 $\theta = \frac{\text{キ}}{\text{ク}}\pi$  のとき最小値  $\text{ケ}$   $\sqrt{\text{コ}}$  +  $\frac{\text{サ}}{\text{シ}}$  をとり、

$$\tan \theta = \frac{\sqrt{\text{ス}} - \text{セ}}{\text{ソ}}$$

を満たす  $\theta$  において最大値  $\sqrt{\text{タ}} + \text{チ}$  をとる.

(c)  $k$  を正の定数とすると、方程式  $x^2 + xy + \frac{1}{2}y^2 = k$  で表される図形は ツ である. この曲線と、

$$x^2 + y^2 = 4, \quad -1 \leq x \leq \sqrt{3}, \quad y > 0$$

で表わされる弧が接するように  $k$  を定めると、2つの曲線の共通接線の傾きは

$$-\frac{\sqrt{\text{テ}} - \text{ト}}{\text{ナ}}$$

となる.

ツ の解答群

① 円

② 放物線

③ 楕円

④ 双曲線

III  ,  ,  の解答は解答群の中から最も適当なものを1つ選べ.

3点 A, B, C がそれぞれ  $x$  軸,  $y$  軸,  $z$  軸上にあり, 原点 O を頂点に持つ3つの三角形 OAB, OBC, OCA の面積の比が  $1 : \sqrt{3} : \sqrt{5}$  となっている. 三角形 ABC を含む平面を  $\alpha$  とする.

(a) 平面  $\alpha$  上にある点 P の位置ベクトルを  $\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB} + u\vec{OC}$  と表わすと,  $s + t + u =$   が成り立つ.

(b) 4点 O, A, B, C を通る球面の中心を D とすると

$$\vec{OD} = \frac{\text{イ}}{\text{ウ}} \vec{OA} + \frac{\text{エ}}{\text{オ}} \vec{OB} + \frac{\text{カ}}{\text{キ}} \vec{OC}$$

と表わされる.

直線 OD と平面  $\alpha$  の交点 G は, 線分 OD を  : 1 に内分する. 点 G は三角形 ABC の  である.

(c) 原点 O から平面  $\alpha$  に下ろした垂線の足を H とすると

$$\vec{OH} = \frac{\text{コ}}{\text{サ}} \vec{OA} + \frac{\text{シ}}{\text{ス}} \vec{OB} + \frac{\text{セ}}{\text{ソ}} \vec{OC},$$

点 D から平面  $\alpha$  に下ろした垂線の足を E とすると

$$\vec{OE} = \frac{\text{タ}}{\text{チ}} \vec{OA} + \frac{\text{ツ}}{\text{テ}} \vec{OB} + \frac{\text{ト}}{\text{ナ}} \vec{OC}$$

が成り立つ.

点 G は線分 EH を 1 :  に内分する.

点 H は三角形 ABC の  であり, 点 E は三角形 ABC の  である.

,  ,  の解答群

- ① 重心
- ② 内心
- ③ 外心
- ④ 垂心
- ⑤ 三辺の中点を通る円の中心
- ⑥ 頂点 A, B における外角の二等分線の交点
- ⑦ 頂点 B, C における外角の二等分線の交点
- ⑧ 頂点 A, C における外角の二等分線の交点

IV 実数  $x$  に対し

$$f(x) = e^{3x} + e^{-3x}, \quad g(x) = e^{3x} - e^{-3x}$$

で定義される 2 つの関数  $f(x)$  と  $g(x)$  および  $h(x) = \frac{g(x)}{f(x)}$  で与えられる関数  $h(x)$  について、以下の問いに答えよ。

(a) 関数  $f(x)$ ,  $g(x)$  は

$$\frac{d}{dx}f(x) = \boxed{\text{ア}} g(x), \quad \frac{d}{dx}g(x) = \boxed{\text{イ}} f(x)$$

という関係を満たす。また、関数  $h(x)$  に対して

$$h(0) = \boxed{\text{ウ}}, \quad \lim_{x \rightarrow \infty} h(x) = \boxed{\text{エ}}, \quad \lim_{x \rightarrow -\infty} h(x) = \boxed{\text{オカ}},$$

$$\frac{d}{dx}h(x) = \frac{\boxed{\text{キク}}}{(f(x))^2}$$

が成り立つ。

(b)  $x$  座標が  $a = \frac{1}{3} \log_e 2$  である点  $(a, h(a))$  における、曲線  $y = h(x)$  の接線を  $C$  とする。

接線  $C$  と直線  $y = \boxed{\text{エ}}$  の交点の  $x$  座標を  $b$  とすると、 $b - a = \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コサ}}}$  となる。

(c)  $x \geq a$  の領域において、接線  $C$ 、曲線  $y = h(x)$ 、直線  $y = \boxed{\text{エ}}$  および直線  $x = t (> b)$

で囲まれた図形の面積を  $S(t)$  とすると、

$$\lim_{t \rightarrow \infty} S(t) = \frac{\boxed{\text{シス}}}{\boxed{\text{セソ}}} + \frac{1}{\boxed{\text{タ}}} \log_e \frac{\boxed{\text{チ}}}{\boxed{\text{ツ}}}$$

が成り立つ。